

記者発表資料

平成 29 年 10 月 31 日 発表 資料		
担 当 課	担当者氏名	電話・ファックス
富加町教育委員会 教育課	主任主査 島田崇正	T0574-54-2177 F0574-54-2461 Kyoiku-g@town.tomika.gifu.jp

下記のとおり発表します。

題	歴史資料の新発見 「堂洞軍鑑記」
概略	<ul style="list-style-type: none"> <li>・富加町にある加治田城と堂洞城は、永禄8年(1565)の織田信長の東美濃攻略に関わる城として知られ、この歴史を広く知っていただくため、本年3月に美濃加茂市・坂祝町・富加町の3市町で歴史PRマンガ「夕雲の城」を刊行した。</li> <li>・ストーリーの中で重要なエピソードとして、織田信長と密約を交わし内応した加治田城主佐藤紀伊守から、堂洞城城主岸勘解由へ人質として嫁入りしていた娘が、佐藤の内応を知った岸勘解由によって殺害されるというシーンがある。</li> <li>・この娘の名前について史料の上では「不明」であったが、地元には「八重緑」という名で伝わっていた。マンガ「夕雲の城」においても伝承で伝わる「八重緑」を採用して登場させた。</li> <li>・この度、地元(富加町加治田)の旧家にて「堂洞軍鑑記」が発見され、上記の娘の名として「八重緑」との記載があった。八重緑の名前を記した初出の史料である。</li> <li>・地域に伝わる伝承と史料とが繋がった点が興味深い。地域に残る口頭伝承には少なくとも150年の重みがあった事になり、地域の伝承がもつ意義を見直す成果となった。</li> <li>・まだ世に出ぬ郷土史料があること、伝承も大切であることを知っていただけるニュースではないか。またニュースを通して当該地域を見直していただけるのではないかと考える。</li> </ul>
発見の経緯	<ul style="list-style-type: none"> <li>・当該史料所蔵者が、美濃加茂市、坂祝町、富加町で刊行した歴史マンガ「夕雲の城」を読み、堂洞合戦に関する古文書が自宅にあったことを思い出して倉庫の中を探したところ、当該史料が発見され、所蔵者の親戚筋にあたる松井屋酒造資料館(富加町加治田)に預けられた。</li> <li>・6月に松井屋酒造資料館から町教委へ連絡が入り、現物を確認して7月から町教委職員(山内正明)が内容を読解した。</li> </ul>
書誌情報	<ul style="list-style-type: none"> <li>■題名 「堂洞軍鑑記」(どうほらぐんかんき)</li> <li>■原本/写本 写本</li> <li>■書写者 夕田村 河合伝左衛門</li> <li>■書写年代 慶応3年(1867) ※絹丸村(現在の富加町加治田字絹丸)天池好房の秘蔵本を書写したと記載</li> <li>■丁数 全15丁(表紙半丁、本文13丁半、奥書半丁、遊紙半丁)</li> <li>■文字数 6,092文字</li> </ul>

<p>内 容</p>	<p>・本書は、いわゆる江戸時代に流行した軍記史料というジャンルのもので、今まで知られていない初出本である。富加町史(昭和50年4月刊行)にも掲載がない。</p> <p>・美濃加茂市、坂祝町、富加町を舞台とした織田信長の東美濃攻略を軸に、信長の美濃攻め、本能寺の変後の加治田金山合戦、関ヶ原合戦の前哨戦である岐阜城の攻防戦などを、当該地域からの目線で記載している。</p> <p>・既に知られている堂洞軍記、南北山城軍記、永禄美濃軍記(※註参照)と筋書きのベースはよく似ているが、一部記載が異なる部分がある。これらよりも堂洞合戦について詳細な記述がある。</p>
<p>注 目 す べ き 点</p>	<p><b>■佐藤紀伊守娘「八重緑」についての史料上の初出である点</b></p> <p>加治田城主の佐藤家から堂洞城主の岸家へ人質として嫁いだ娘について、現存する史料にはその名前は記載されていなかった。しかし地域に残る口頭伝承として娘の名が「八重緑」と伝わっており、マンガ「夕雲の城」においても「八重緑」の名を使用した。今回発見された「堂洞軍鑑記」において史料上に初めて「八重緑」の記載があった。</p> <p>地域に伝わる伝承が史料と繋がった点が興味深い。地域に残る口頭伝承には少なくとも150年の重みがあった事になる。伝承の意義を見直す成果となった。</p> <p><b>■織田信長が堂洞城を攻める際に陣を置いた場所を「江見山」と記載している点</b></p> <p>従来の軍記史料では「高畑村の中、小高き山にぞ」(南北山城軍記)、「高畑村の山に御陣取成され」(永禄美濃軍記)と記載され具体的な場所は不明であった。新資料には「高畑村江見山に御陣を居へられ」とあり、現在の富加町高畑地区にある「恵日山(えびやま)」が該当する可能性が高まった。</p> <p><b>■マンガ「夕雲の城」の刊行が契機となったこと</b></p> <p>3月の刊行後に、地域の方から様々な情報や古文書などが寄せられた。マンガ「夕雲の城」が地域の歴史を見つめ直すきっかけとなっていると感じている。</p>
<p>資 料 の 公 開</p>	<p><b>■下記のイベントにて現物史料を展示します。</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日 時 平成29年11月23日(祝)午後2時開演(午後1時30分開場)</li> <li>・名 称 歴史講談「夕雲の城」 講談師旭堂南海さんによるオリジナル講談の上演会</li> <li>・会 場 タウンホールとみか</li> <li>・参加費 無料(申し込み不要)</li> <li>・展示場所 タウンホールのロビーにて展示ケースと説明パネルを設置</li> </ul>
	<p>問い合わせ先:富加町教育委員会 0574-54-2177</p>

註

■「堂洞軍記」（どうほらぐんき）

所蔵先：岐阜県図書館、富加町郷土資料館所蔵

作 者：不明

成立年：元禄13年（1700）か

■「南北山城軍記」（なんぼくさんじょうぐんき）

所蔵先：岐阜県図書館

作 者：山本館里

成立年：寛保3年（1743）ごろ

現存するものは、寛政年間（1795年頃）の写本を昭和6年（1931）に写したものの

■「永禄美濃軍記」写本

所蔵先：関市佐藤氏

作 者：不明

成立年：元禄13年（1700）

現存するものは、原本を明治16年に写したものの